

鹿児島市 上下水道ビジョン

令和4年度～令和13年度
(2022年度～2031年度)

KAGOSHIMA CITY WATERWORKS AND SEWERAGE VISION

【概要版】

くらしを守り 未来までささえ続ける

かごしまの上下水道



鹿児島市水道局

目次

第1章 はじめに	
1 策定の趣旨	1
2 計画期間.....	1
3 計画の位置づけ.....	2
第2章 上下水道ビジョンの全体像	
1 基本理念.....	3
2 将来像と基本目標	3
(1) 将来像	3
(2) 基本目標	4
第3章 施策と取組事項	
1 施策と取組事項	7
【基本目標1 安全で快適な暮らしと良好な水環境】	
(1) 安全で良質な水の供給.....	7
(2) 整備推進	9
(3) 老朽化対策	10
(4) 適切な維持管理	11
【基本目標2 災害に備える】	
(1) 被災の最小化	12
(2) 速やかな復旧	13
【基本目標3 脱炭素・循環型社会への貢献】	
(1) 環境負荷の低減	14
(2) 資源の有効利用	15
【基本目標4 健全な事業運営】	
(1) DXの推進	16
(2) 施設の最適化	17
(3) 経営基盤の強化	18
【基本目標5 信頼性の向上】	
(1) サービスの向上.....	19
(2) 事業の見える化	20
2 SDGsとの関連について.....	21
(1) SDGsとは.....	21
(2) 本ビジョンとSDGsとの関連について	22
第4章 上下水道ビジョンの実現に向けて	
1 上下水道事業経営計画の策定	23
2 経営計画の事後検証、更新等	24
(1) 進捗管理（モニタリング）	24
(2) 計画見直し（ローリング）	24

第1章 はじめに

1 策定の趣旨

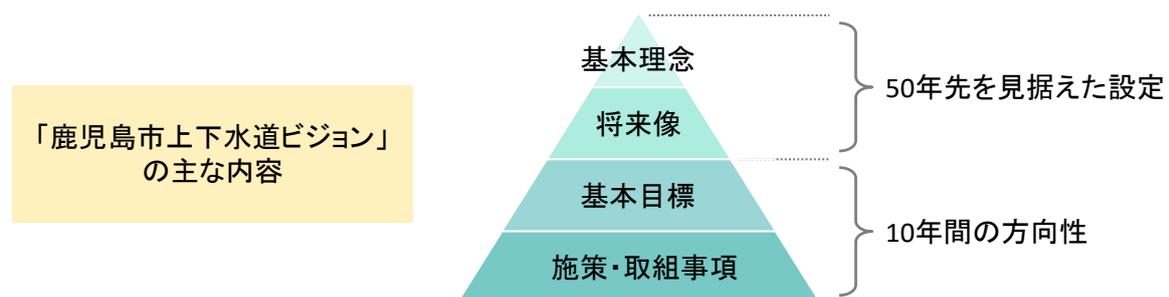
本市の上下水道事業は、平成 21 年度に「鹿児島市水道ビジョン（計画期間：H21～H33）」（H30 一部見直し）、平成 15 年度に「鹿児島市公共下水道事業基本構想（目標年度：H35）」（汚水）を策定し、計画的に施策を推進してきました。

近年の大きな取組として、水道事業は取水量低下や老朽化など課題のある水源地等の統廃合を進め、公共下水道事業は老朽化が進み、かつ規模の小さい処理場を廃止するために南部処理場と谷山処理場への集約化を進め、上下水道事業のコスト縮減を図りながら事業効率化に努めてきました。

一方で、節水機器の普及や人口減少などに伴う水需要の減少、近年九州地方で頻発している豪雨水害や熊本地震などの大規模災害の発生、国の動きとして「新水道ビジョン」「新下水道ビジョン」の策定など、上下水道事業を取り巻く環境や社会情勢は大きく変化しています。さらに、平成 27 年 9 月の国連総会において、「SDGs（持続可能な開発目標）」が採択され、SDGs の普及・啓発に積極的に取り組むこととしています。

こうした社会情勢等の変化の中でも、市民生活に必要不可欠なライフラインである上下水道サービスを、将来にわたって安定的に運営し、次世代につなげていく必要があります。

そこで、50 年先の将来を見据えた持続可能な事業運営のため、本市の上下水道事業の方向性を示す上下水道一体となった「鹿児島市上下水道ビジョン」を策定するものです。



2 計画期間

計画期間は、本市の上位計画である「第六次鹿児島市総合計画（R4～R13）」の計画期間と整合するものとし、令和 4 年度から令和 13 年度までの 10 年間とします。

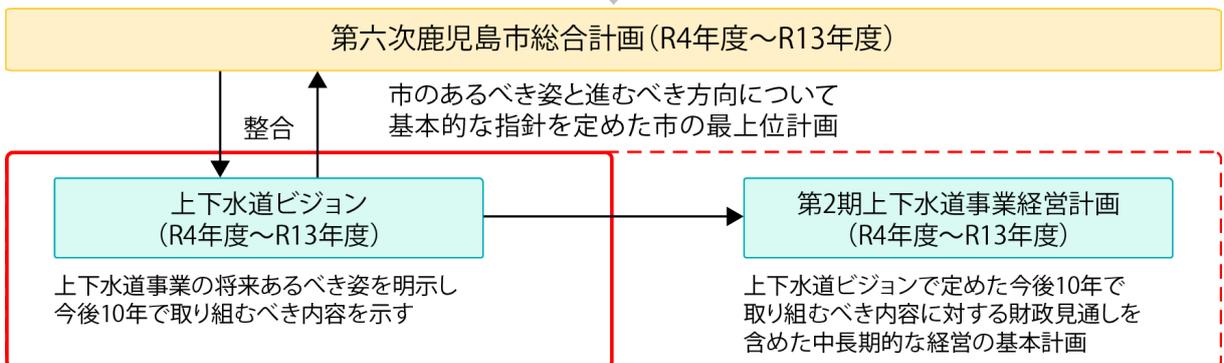
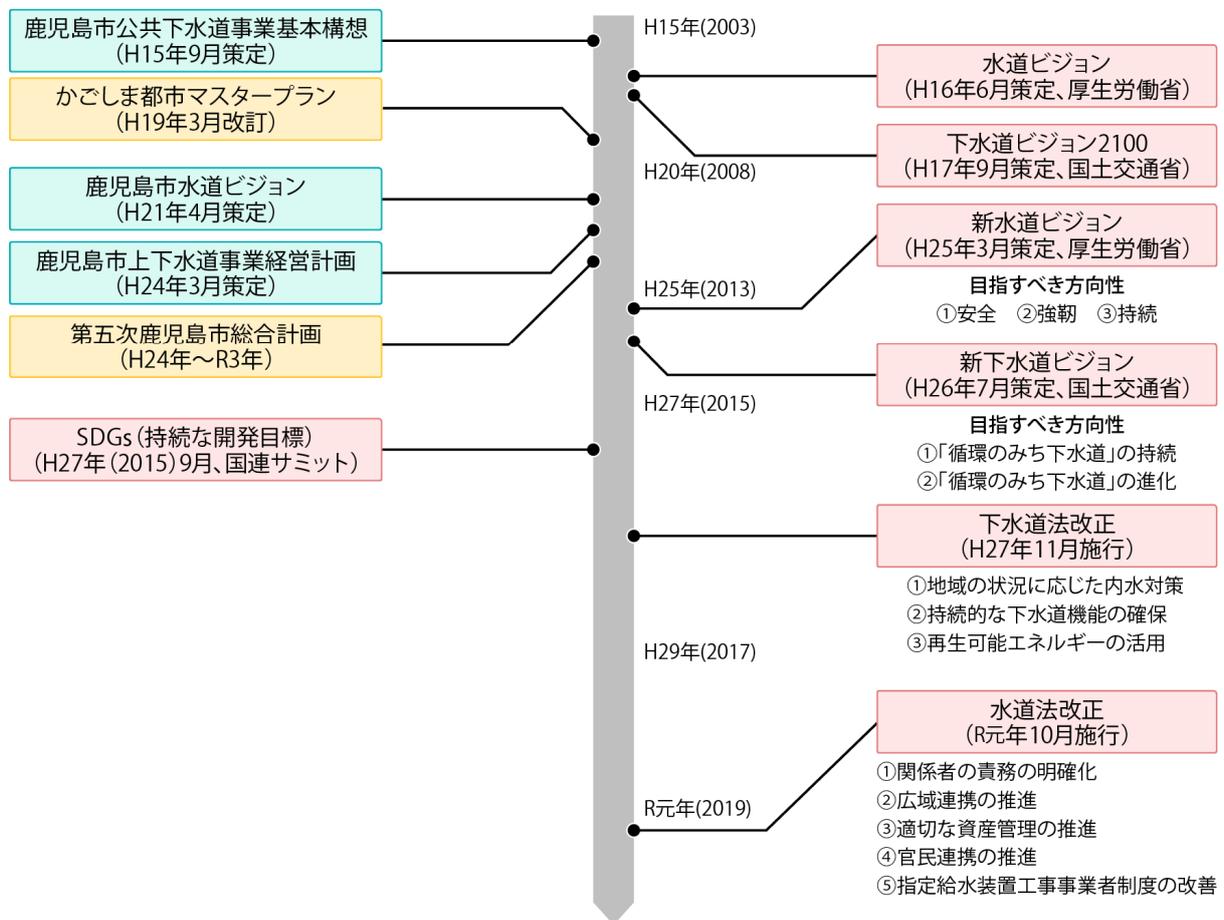
計 画 期 間	令和 4（2022）年度～令和 13（2031）年度
---------	----------------------------

3 計画の位置づけ

本ビジョンは、50年先の将来を見据えて「基本理念」、目指すべき「将来像」を設定し、これを実現するための10年間の方向性（「基本目標」、「施策」）を定め、とりまとめたものです。

また、本市上位計画の「第六次鹿児島市総合計画」とも整合を図りつつ、厚生労働省が示した「新水道ビジョン」、国土交通省が示した「新下水道ビジョン」の考え方を踏まえて策定したものであり、本市上下水道事業の基本計画として位置づけるものです。

なお、本ビジョンの具体的な施策等については、財政見通しを踏まえ、優先度・重要度を考慮した具体的な計画である「鹿児島市上下水道事業経営計画」において、個々の取組を推進していきます。



市全体の計画 水道局の計画 国の計画、動き

第2章

上下水道ビジョンの全体像

1 基本理念

市民生活に必要な不可欠なライフラインとして上下水道が持つさまざまな使命や役割を果たすため、上下水道を取り巻く社会経済情勢の変化や将来に向けた課題などを踏まえ、50年先の将来を見据え本市上下水道が目指すべき方向性を示す“基本理念”を以下のとおり定めました。

〈鹿児島市上下水道ビジョン〉の基本理念



“基本理念”には、つぎの思いを込めています。

- **安全・安心**な市民の「くらし」を、**強靱**なライフラインで「守り」
- **脱炭素・循環型社会**に貢献することで地球**環境**を「守り」、「未来」へつなぐ
- **将来にわたり持続**的な事業運営を行い、「未来まで」市民生活と産業を「ささえ続ける」

2 将来像と基本目標

(1) 将来像

本市は、50年先の将来を見据えた基本理念を実現するため、4つの目指すべき“将来像”を掲げます。

〈Ⅰ 安全・安心〉

市民が安全な水をいつでも安心して飲む「水道」と安全・安心を守る「公共下水道」

〈Ⅱ 強靱〉

災害時においても被災を最小限にとどめ、災害から生活を守る「水道」と「公共下水道」

〈Ⅲ 環境〉

快適な水環境や地球環境に貢献する「水道」と「公共下水道」

〈Ⅳ 持続〉

時代や地域ニーズに適切につつ、健全かつ安定的な事業運営を可能とする「水道」と「公共下水道」

(2) 基本目標

“基本理念”及び目指すべき“将来像”を実現するため、今後 10 年間（令和 4 年度から令和 13 年度）の方向性を示す 5 つの“基本目標”を設定します。

－ 基本目標 －

「1 安全で快適な暮らしと良好な水環境」

～市民生活の安全を守り、きれいな水環境をつくる～

いつでも安全で良質な水を安心して飲めるよう、施設管理や水質管理を徹底するとともに、計画的に水道施設の整備や更新を行います。

また、良好な水環境と快適な生活環境の確保を図るため、計画的に下水道施設の整備や更新を行います。

「2 災害に備える」

～災害時に被災を最小限にとどめ、速やかな復旧を図る～

市民生活に必要な不可欠なライフラインとして、災害時に被災を最小限にとどめ、被災した場合でも速やかに復旧できる上下水道の構築を行うため、災害対策の充実を図ります。

「3 脱炭素・循環型社会への貢献」

～環境負荷の低減や資源の有効利用に努め、環境を守る～

温室効果ガスの抑制や省エネルギーに配慮した取組を推進するとともに、水資源の保全や資源の有効利用を図り、地球環境を守ります。

「4 健全な事業運営」

～持続可能な経営の推進を図る～

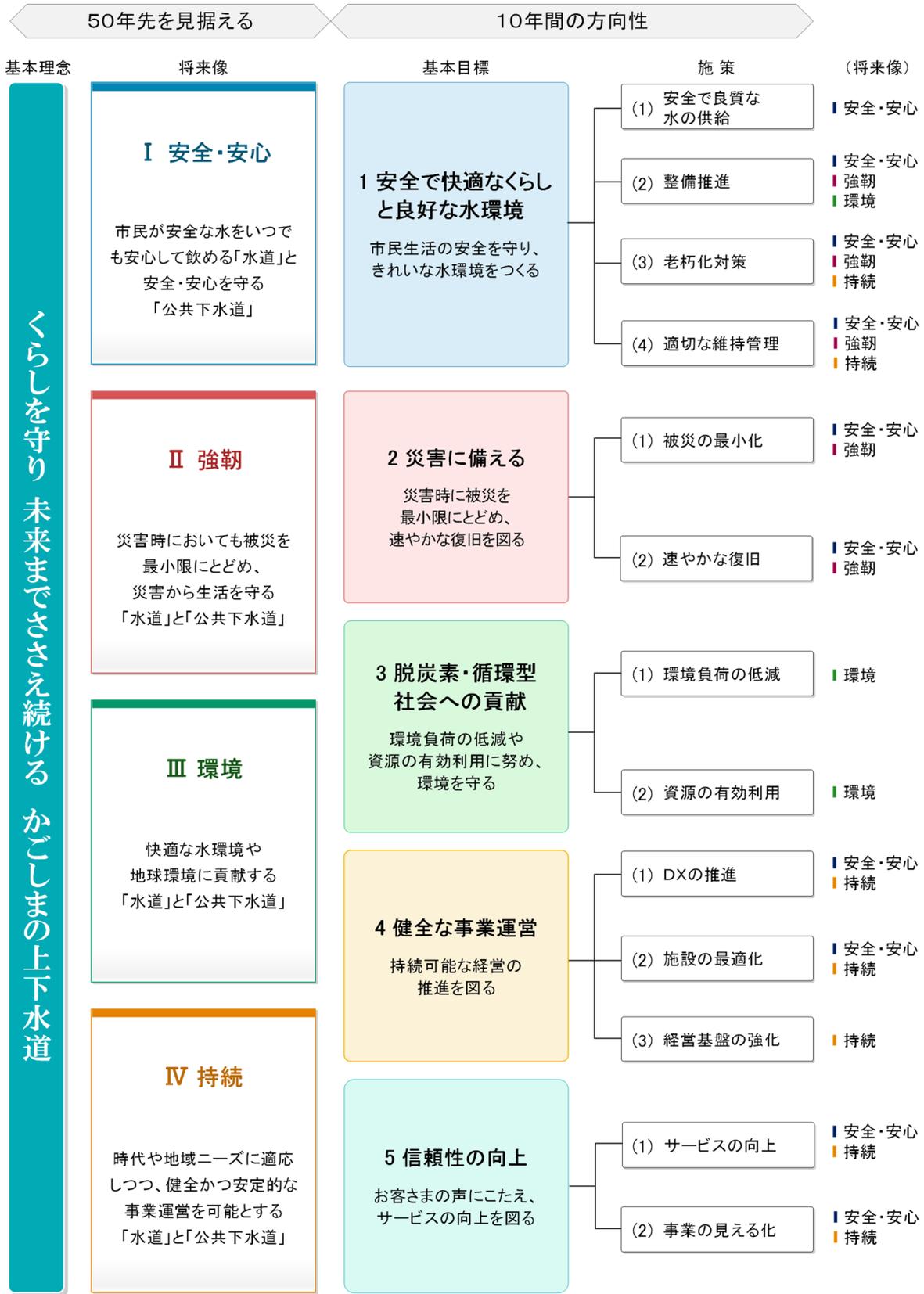
施設の最適化や効率的な維持管理及び経営基盤の強化に努め、健全で安定的な事業運営を図ります。

「5 信頼性の向上」

～お客さまの声にこたえ、サービスの向上を図る～

経営審議会や水道モニターなどからの意見・提言やお客さまの声を活用してサービスの向上を図るとともに、わかりやすい広報に努めることで信頼性の向上に努めます。

“基本理念～施策”の体系図



施策と取組事項一覧

基本目標	施策	取組事項
1 安全で快適なくらしと良好な水環境	(1) 安全で良質な水の供給	①水質管理の充実・強化
		②貯水槽水道の適正な管理に係る指導・助言等
		③直結給水方式の利用促進
	(2) 整備推進	①地域の実情に応じた水道施設整備
		②簡易水道の編入等
		③計画的な下水道施設（污水）整備
		④計画的な下水道施設（雨水）整備
	(3) 老朽化対策	①水道管路・施設の更新、長寿命化
		②河頭浄水場（甲系統の浄水施設）の更新
		③工業用管路・施設の更新
		④下水道管路・処理施設（污水）の更新、長寿命化
		⑤下水道管路施設（雨水）の更新、長寿命化
	(4) 適切な維持管理	①水道管路・施設の適切な維持管理
②下水道管路・処理施設（污水）の適切な維持管理		
③下水道管路施設（雨水）の適切な維持管理		
2 災害に備える	(1) 被災の最小化	①水道管路・施設の耐震化
		②下水道管路・処理施設（污水）の耐震化
		③下水道管路施設（雨水）の耐震化
		④下水道施設（雨水）による浸水対策
		⑤水道施設の耐水化
		⑥下水道施設の耐水化
	(2) 速やかな復旧	①災害対策の充実
		②応急給水対策
		③渴水対策
		④非常用電源の確保
3 脱炭素・循環型社会への貢献	(1) 環境負荷の低減	①水資源の保全
		②公共用水域の水質保全
		③上下水道施設の省エネルギー対策
	(2) 資源の有効利用	①浄水発生土の有効利用
②下水道資源の有効利用		
4 健全な事業運営	(1) DXの推進	①ICTの活用
		②ストックマネジメントシステムの活用
	(2) 施設の最適化	①水道施設の統廃合
		②下水処理場・ポンプ場施設の再構築
		③下水汚泥処理施設の再構築
	(3) 経営基盤の強化	①効率的経営の推進
		②遊休資産の有効活用
		③廃止施設の有効活用
		④組織、定数の適正化
		⑤職員の資質向上・技術の継承
		⑥上下水道料金等未収金対策の強化
		⑦広告料収入の確保
		⑧資本の造成・財源の確保
⑨資金運用方針		
⑩一般会計からの繰入金の確保		
⑪広域化の取組		
⑫料金等体系の調査・研究、適正な料金等の設定		
5 信頼性の向上	(1) サービスの向上	①お客さまサービスの充実
		②お客さまの声の積極的な活用
	(2) 事業の見える化	①上下水道の魅力のPR
		②お客さまへの広報
		③水の環境学習の推進

第3章

施策と取組事項

1 施策と取組事項

本項では、今後 10 年間の目指すべき方向性を示す 5 つの「基本目標」を達成するために、施策ごとの現状と課題、その課題を解決するための具体的な取組事項を示します。

【基本目標 1 安全で快適な暮らしと良好な水環境】

市民生活の安全を守り、きれいな水環境をつくるための施策と取組事項は以下のとおりです。

(1) 安全で良質な水の供給 安全・安心



【現状と課題】

本市では、安全で良質な水を供給できるよう、連続水質監視や定期水質検査等を通じて水源水質の監視や水質変動に応じた適切な浄水処理を行ってきました。

今後も引き続き、安全で良質な水を供給できるよう、水源から各家庭の蛇口に至るまで、きめ細かな水質管理を徹底するとともに、水質検査の精度と信頼性の確保に努めていく必要があります。

また、水のおいしさに関するお客様のニーズを踏まえ、引き続き、おいしい水を供給できるよう努める必要があります。

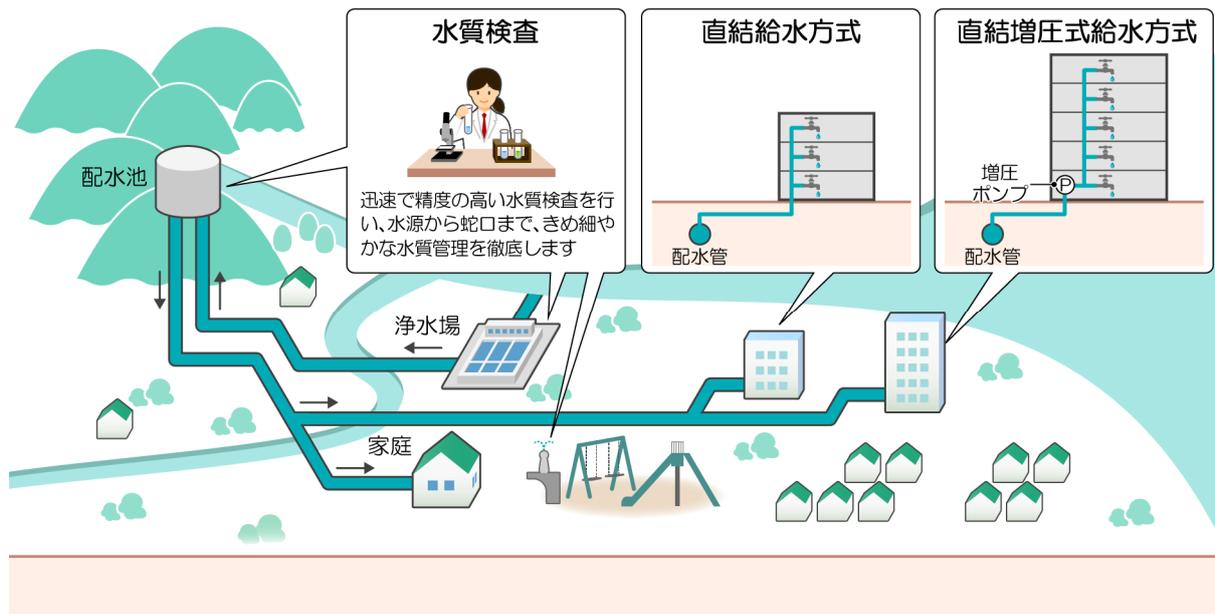
【具体的な取組事項】

- ①水質管理の充実・強化
- ②貯水槽水道の適正な管理に係る指導・助言等
- ③直結給水方式の利用促進

【指標と目標値】

施策	指標	単位	概要・算定式	現状 (R2)	目標値 (R13)	取組事項
(1)安全で良質な水の供給	水質基準適合率	%	(水質基準適合回数/全検査回数) × 100	100	100	1-(1)-①
	おいしい水目標達成率	%	(目標達成回数/全検査回数) × 100	91.9	100	

※おいしい水の指標として、味・におい・外観・安全性に関する 8 項目（残留塩素、かび臭物質（2-MIB・ジェオスミン）、有機物（TOC）、色度、濁度、総トリハロメタン、農薬類）について、国の基準よりも厳しい鹿児島市独自の水質目標を設定し、その達成を目指します。



「安全で良質な水の供給」のイメージ

(2) 整備推進

安全・安心

強靱

環境



【 現状と課題 】

本市の水道事業では、安定給水を図るため、配水池の増強など施設整備を進めてきましたが、引き続き、小規模な水源から給水している地域などについては、計画的な施設整備を進める必要があります。

また、これまで 37 箇所の簡易水道等を本市水道に編入しましたが、計画給水区域内にある未編入の簡易水道等については、関係部局と連携し、地元と協議を行う必要があります。

下水道事業では、生活環境の改善を図るため、計画的に汚水整備を進め処理区域を拡大するとともに普及促進に努めてきました。また、浸水防除のため、既成市街地や土地区画整理事業区域における雨水整備を進めてきました。

今後も引き続き、市街化区域内の計画的な整備や他事業の進捗に合わせた効率的な整備を行うとともに、普及促進に努め、近年の財政状況や人口減少を踏まえ、汚水処理手法の最適化の検討を進める必要があります。

【 具体的な取組事項 】

- ① 地域の実情に応じた水道施設整備
- ② 簡易水道の編入等
- ③ 計画的な下水道施設（汚水）整備
- ④ 計画的な下水道施設（雨水）整備

【 指標と目標値 】

施策	指標	単位	概要・算定式	現状 (R2)	目標値 (R13)	取組事項
(2) 整備推進	下水道処理人口普及率	%	処理区域内人口/ 行政区域内人口	79.5	81.3	1-(2)-③
	公共下水道（雨水管きよ）の整備率	%	雨水管きよ整備済面積/ 下水道事業計画区域	72.5	73.9	1-(2)-④



「整備推進」のイメージ

(3) 老朽化対策

安全・安心

強靱

持続



【 現状と課題 】

本市では、高度経済成長期やそれに伴う市勢の発展に伴い、昭和 40 年代から平成のはじめにかけて、集中的に整備してきた上下水道施設が、耐用年数を迎え老朽化しています。

今後は、老朽化した施設の増加に伴い、これら施設の更新費用が増大すると想定されます。

このため、中長期的な更新需要や財政収支を見据えた上下水道施設の更新計画に基づき、計画的な更新や長寿命化を行う必要があります。

【 具体的な取組事項 】

- ①水道管路・施設の更新、長寿命化
- ②河頭浄水場（甲系統の浄水施設）の更新
- ③工業用水道管路・施設の更新
- ④下水道管路・処理施設（汚水）の更新、長寿命化
- ⑤下水道管路施設（雨水）の更新、長寿命化

【 指標と目標値 】

施策	指標	単位	概要・算定式	現状 (R2)	目標値 (R13)	取組事項
(3) 老朽化対策	水道管路の更新実施率	%	更新済延長/ 更新計画延長	—	100	1-(3)-①
	汚水管路の改築実施率	%	改築済延長/ 改築計画延長	—	100	1-(3)-④



「老朽化対策」のイメージ

(4) 適切な維持管理

安全・安心

強靱

持続



【 現状と課題 】

本市の上下水道事業ではこれまで、計画的な点検調査、修繕などを実施しています。

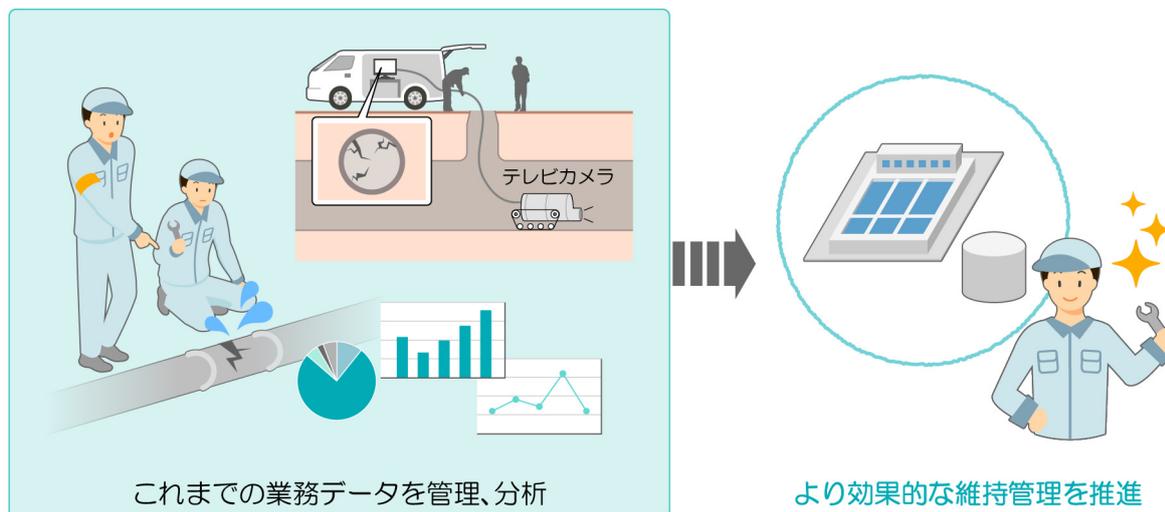
今後は、これまでの業務で得た情報を蓄積・管理・分析し、より効率的で効果的な維持管理を推進する必要があります。

【 具体的な取組事項 】

- ①水道管路・施設の適切な維持管理
- ②下水道管路・処理施設（污水）の適切な維持管理
- ③下水道管路施設（雨水）の適切な維持管理

【 指標と目標値 】

施策	指標	単位	概要・算定式	現状 (R2)	目標値 (R13)	取組事項
(4) 適切な維持管理	水道管路の漏水調査実施率	%	年間調査実施延長/ 年間調査計画延長	100	100	1-(4)-①
	腐食の恐れが大きい汚水管路の点検実施率	%	点検済汚水管路延長/ 腐食の恐れが大きい 汚水管路点検計画延長	—	100	1-(4)-②



「適切な維持管理」のイメージ

【 基本目標 2 災害に備える 】

災害時に被災を最小限にとどめ、速やかな復旧を図るための施策と取組事項は以下のとおりです。

(1) 被災の最小化

安全・安心

強靱



【 現状と課題 】

本市では、大規模な地震が発生した場合でも被害を最小限に抑えるため、上下水道施設の耐震化を進めてきました。

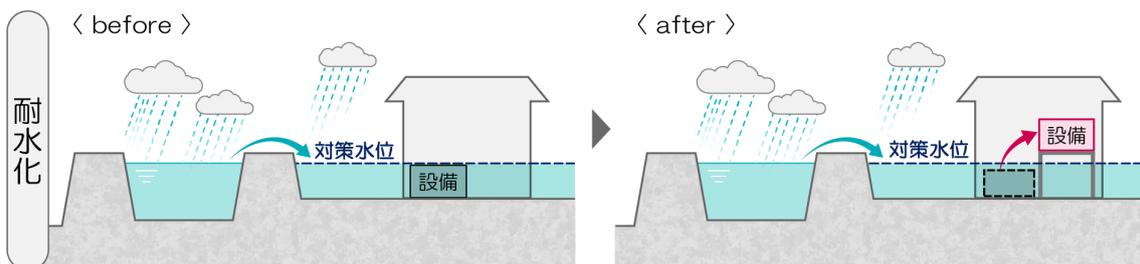
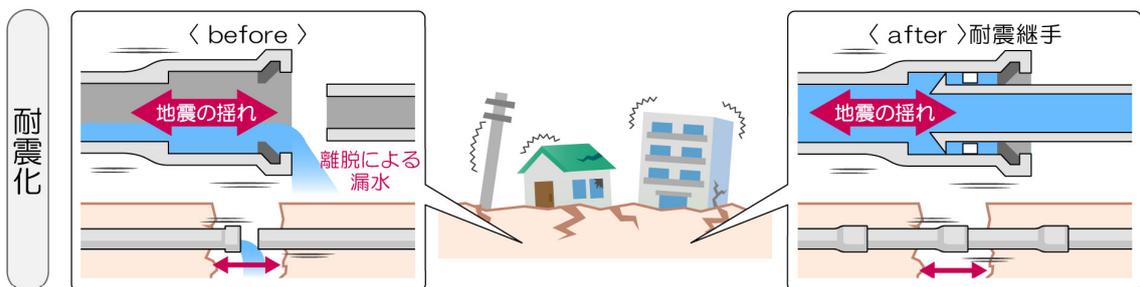
今後も引き続き、施設の優先度を考慮しながら、上下水道施設の耐震化を推進していく必要があります。また、大雨や台風などの水害対策として、浸水対策の推進や被災リスクの高い上下水道施設の耐水化を進めていく必要があります。

【 具体的な取組事項 】

- ①水道管路・施設の耐震化
- ②下水道管路・処理施設（污水）の耐震化
- ③下水道管路施設（雨水）の耐震化
- ④下水道施設（雨水）による浸水対策
- ⑤水道施設の耐水化
- ⑥下水道施設の耐水化

【 指標と目標値 】

施策	指標	単位	概要・算定式	現状 (R2)	目標値 (R13)	取組事項
(1) 被災の最小化	水道管路（基幹管路）の耐震適合率	%	耐震適合性のある基幹管路延長 / 基幹管路総延長	51.3	56.8	2-(1)-①
	污水管路（重要な幹線等）の耐震化率	%	耐震性のある重要な幹線等の管路延長 / 重要な幹線等の管路延長	53.3	55.3	2-(1)-②



「被災の最小化」のイメージ

(2) 速やかな復旧

安全・安心

強靱



【 現状と課題 】

本市では、風水害や大規模地震、桜島の大規模噴火、濁水など災害発生時に備え、資機材の備蓄や応急給水訓練及び初期活動訓練などを実施しており、また、他都市及び関係団体とも災害発生時の応援協定を締結しています。

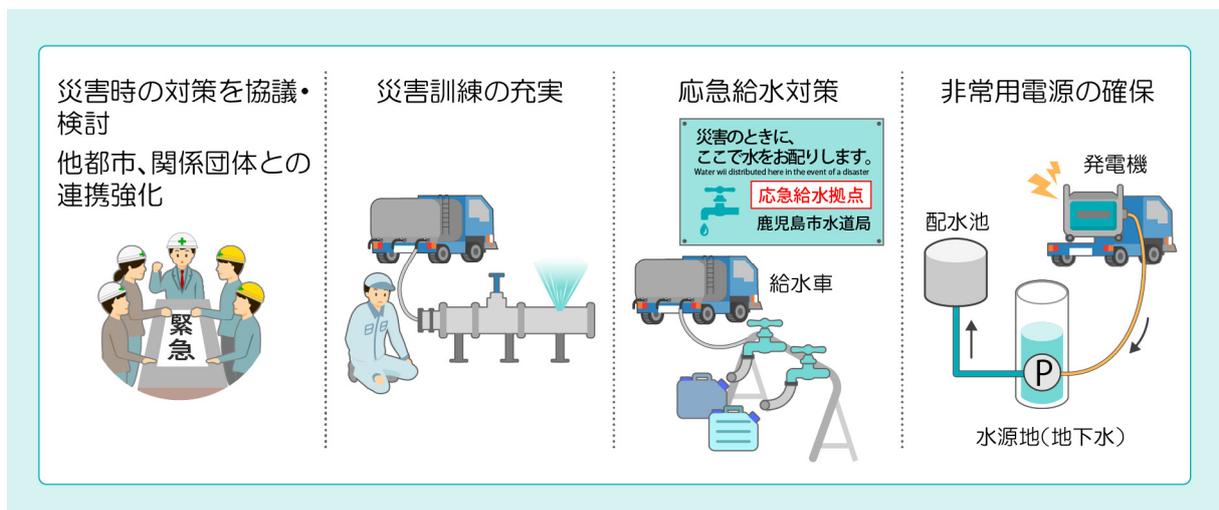
今後も、災害発生時に迅速に対応するため、応急復旧等の対策を常に検証・検討するとともに、災害訓練の充実等により、災害対応の強化に努めていく必要があります。

【 具体的な取組事項 】

- ①災害対策の充実 ②応急給水対策 ③濁水対策 ④非常用電源の確保

【 指標と目標 】

施策	指標	単位	概要・算定式	現 状 (R2)	目標値 (R13)	取組事項
(2) 速やかな復旧	災害対策訓練回数	回/年	災害対策訓練回数	4	7	2-(2)-①



「速やかな復旧」のイメージ

【 基本目標 3 脱炭素・循環型社会への貢献 】

環境負荷の低減や資源の有効利用に努め、環境を守るための施策と取組事項は以下のとおりです。

(1) 環境負荷の低減

環境



【 現状と課題 】

本市では、循環型社会や地球温暖化への対応を行うため、水源かん養林の育成支援、電力消費量や温室効果ガスの削減効果が期待できる省エネルギー機器の導入及び適正な下水処理水の放流を行ってきました。

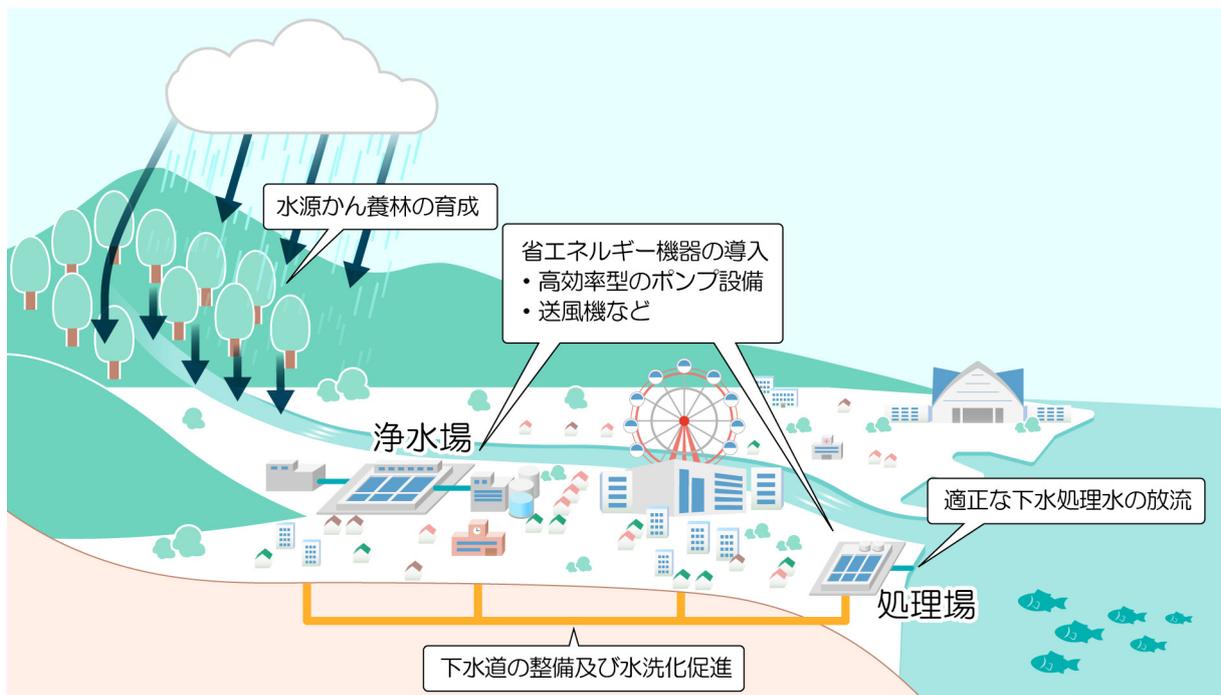
今後も一層、環境負荷の低減に取り組んでいく必要があります。

【 具体的な取組事項 】

- ①水資源の保全 ②公共用水域の水質保全 ③上下水道施設の省エネルギー対策

【 指標と目標値 】

施策	指標	単位	概要・算定式	現状 (R2)	目標値 (R13)	取組事項
(1) 環境負荷の低減	放流水の生物化学的酸素要求量	mg/L	生物化学的酸素要求量 (BOD) / 放流水 1 リットル	2.9~3.1	15 以下	3-(1)-②
	放流水の浮遊物質質量	mg/L	浮遊物質質量 (SS) / 放流水 1 リットル	2	40 以下	



「環境負荷の低減」のイメージ

(2) 資源の有効利用

環境



【 現状と課題 】

本市では、循環型社会への貢献として、浄水発生土、下水汚泥、下水処理水の有効利用を行ってきました。

特に下水汚泥は堆肥化し、有機質肥料「サツマソイル」として有効利用を図っておりますが、堆肥化施設が老朽化していることや、販売先が大口顧客に限られており、需要変動を受けやすいことなどが課題となっています。

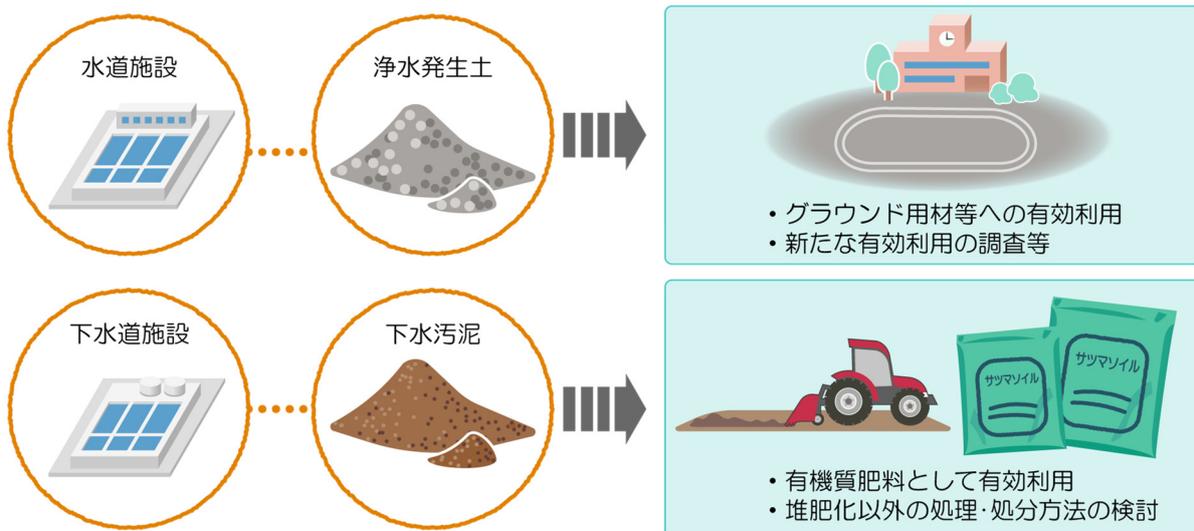
近年は技術進歩によりバイオガスや汚泥燃料等、多様な資源として利用され始めていることから、今後も、上下水道施設から発生する資源の有効利用に努めるとともに、新たな利用方法を検討していく必要があります。

【 具体的な取組事項 】

- ①浄水発生土の有効利用 ②下水道資源の有効利用

【 指標と目標値 】

施策	指標	単位	概要・算定式	現状 (R2)	目標値 (R13)	取組事項
(2) 資源の有効利用	浄水発生土の有効利用率	%	有効利用土量/ 浄水発生土量	100	100	3-(2)-①
	下水汚泥の有効利用率	%	有効利用汚泥量/ 発生汚泥量	100	100	3-(2)-②



「資源の有効利用」のイメージ

【基本目標 4 健全な事業運営】

持続可能な経営の推進を図るための施策と取組事項は、以下のとおりです。

(1) D Xの推進

安全・安心

持続



【現状と課題】

本市では、上下水道施設の予防保全的な維持管理を行うため、新たな管理手法として、ストックマネジメントシステムの構築を行い、効率的な維持管理を行うためにタブレット端末の導入を進めてきました。

今後も引き続き、システムの構築を行うとともに、I C Tの活用など、上下水道施設のより効率的かつ効果的な管理手法や体制などを検討する必要があります。

【具体的な取組事項】

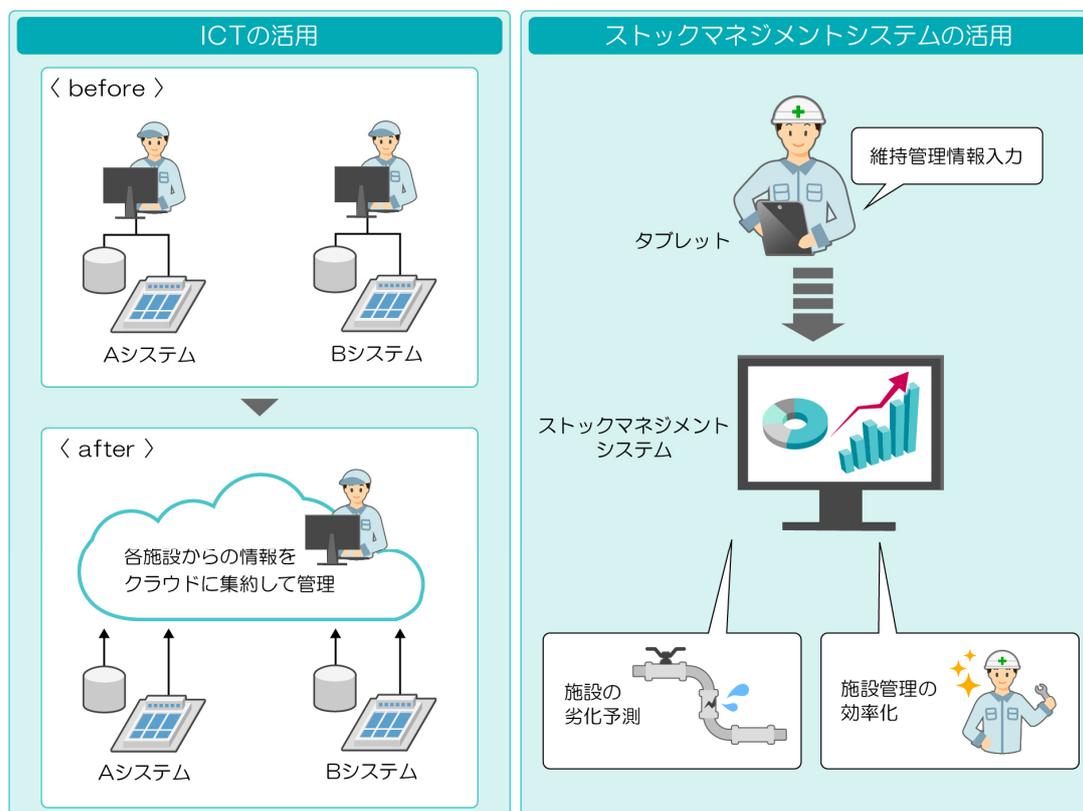
① I C Tの活用

②ストックマネジメントシステムの活用

【指標と目標値】

施策	指標	単位	概要・算定式	現状 (R2)	目標値 (R13)	取組事項
(1) D Xの推進	D Xの推進に係るシステムの導入	件	計画期間内に新たに導入するシステムの件数	—	1	4-(1)-①

※DX（デジタルトランスフォーメーション）は、デジタル技術を活用し、組織内外や社会全体で情報を共有し、ネットワーク化することで、人々の生活をより良いものに変革していくことを指す用語です。



「DXの推進」のイメージ

(2) 施設の最適化

安全・安心

持続



【現状と課題】

本市ではこれまで、水需要が減少傾向にあることなどを踏まえ、長期的視点に立った施設能力適正化の検討結果に基づき、上下水道施設の統廃合を行い、施設整備費や維持管理費の削減に取り組んできました。

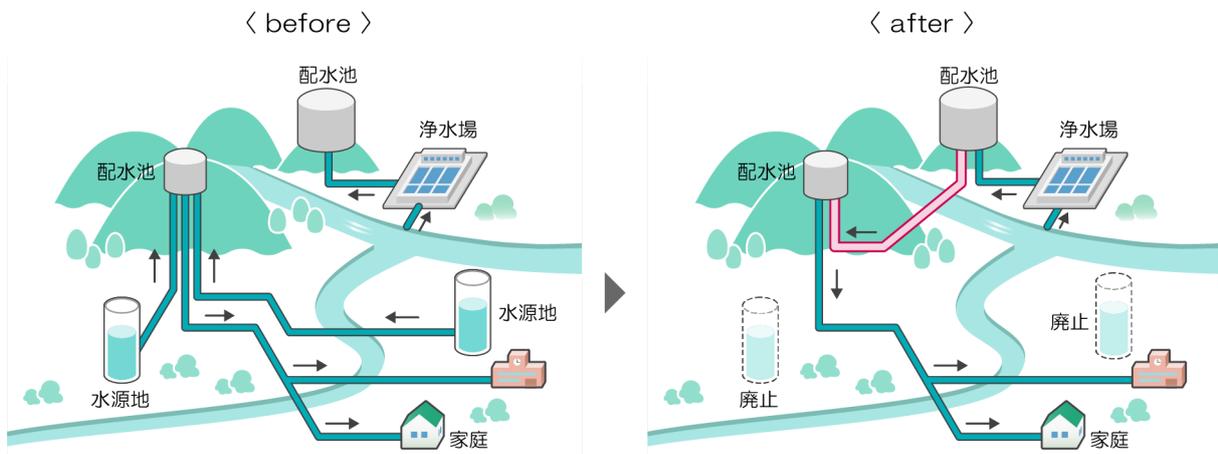
今後も水需要が減少傾向にあることや施設が老朽化していることから、引き続き、上下水道施設の統廃合や再構築を検討していく必要があります。

【具体的な取組事項】

- ① 水道施設の統廃合
- ② 下水処理場・ポンプ場施設の再構築
- ③ 下水污泥処理施設の再構築

【指標と目標値】

施策	指標	単位	概要・算定式	現状 (R2)	目標値 (R13)	取組事項
(2) 施設の最適化	水道施設の統廃合の施設数	施設	計画期間内に実施する施設統廃合の施設数	—	6	4-(2)-①



「施設の最適化」のイメージ

(3) 経営基盤の強化

持続



【 現状と課題 】

上下水道は市民生活に欠かすことのできない重要なインフラであり、将来にわたって安定したサービスを供給していくためにも、経営基盤の強化が必要です。

本市ではこれまで、経営計画に基づく健全な事業運営やお客様料金センターの開設などを行ってきました。

今後も計画的かつ効率的な経営を行うなど、持続可能な財政状況の維持に努めるとともに、人材育成や技術の継承に取り組み、技術基盤の強化を図る必要があります。

【 具体的な取組事項 】

- | | |
|-----------------|----------------------|
| ① 効率的経営の推進 | ② 遊休資産の有効活用 |
| ③ 廃止施設の有効活用 | ④ 組織、定数の適正化 |
| ⑤ 職員の資質向上・技術の継承 | ⑥ 上下水道料金等未収金対策の強化 |
| ⑦ 広告料収入の確保 | ⑧ 資本の造成・財源の確保 |
| ⑨ 資金運用方針 | ⑩ 一般会計からの繰入金の確保 |
| ⑪ 広域化の取組 | ⑫ 料金等体系の調査・研究、料金等の設定 |

【 指標と目標値 】

施策	指標	単位	概要・算定式	現状 (R2)	目標値 (R13)	取組事項
(3) 経営基盤の強化	経常収支比率 (水道)	%	経常収益 / 経常費用	108.79	100 以上	4-(3)
	経常収支比率 (下水道)	%	経常収益 / 経常費用	106.42	100 以上	
	料金回収率 (水道)	%	供給単価 / 給水原価	105.15	100 以上	
	経費回収率 (下水道)	%	使用料単価 / 汚水処理原価	97.02	100 以上	

- ・組織、定数の適正化
- ・職員の資質向上・技術の継承

- ・効率的経営の推進など

- ・資本の造成・財源の確保
- ・料金等体系の調査・研究、適正な料金等の設定など



「経営基盤の強化」のイメージ

【基本目標 5 信頼性の向上】

お客さまの声にこたえ、サービスの向上を図るための施策と取組事項は、以下のとおりです。

(1) サービスの向上

安全・安心

持続



【現状と課題】

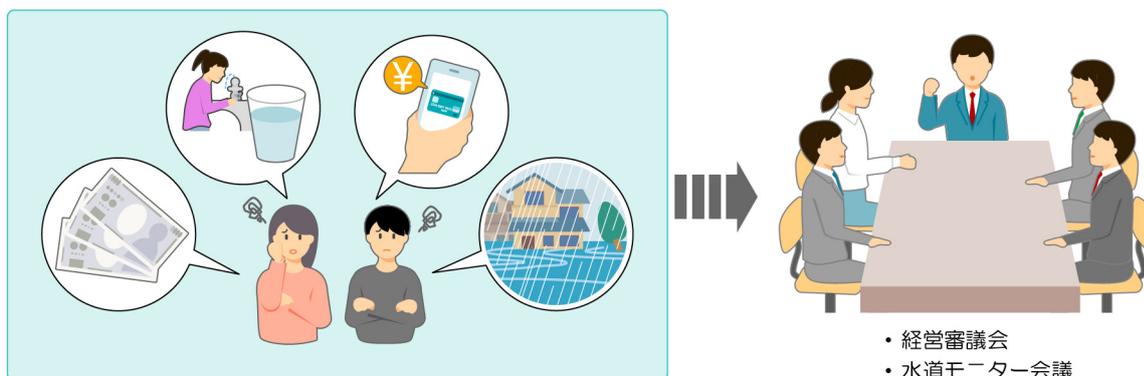
お客さまの声やニーズを的確に把握しながら、常にお客さまの視点に立ったサービスの提供に励み、お客さま満足度のさらなる向上に努める必要があります。

【具体的な取組事項】

- ①お客さまサービスの充実 ②お客さまの声の積極的な活用

【指標と目標値】

施策	指標	単位	概要・算定式	現状 (R2)	目標値 (R13)	取組事項
(1)サービスの向上	モニター会議回数	回/年	モニター会議の開催回数	4	4	5-(1)-②



「サービスの向上」のイメージ

(2) 事業の見える化

安全・安心

持続



【現状と課題】

本市のおいしい水をPRするために、水道水の原水を使ったペットボトル水の製造や、下水道への関心を高めるため、デザインマンホール蓋の設置及びマンホールカードの配布を行ってきました。

また、上下水道事業について理解していただくため、広報紙やホームページ等を利用して、お客さまから求められる情報の広報に努めてきました。

このほか、水の環境学習として、市政出前トークや浄水場・処理場の施設見学等を行ってきました。

今後も効果的なPRやわかりやすい広報活動を図っていく必要があります。

【具体的な取組事項】

- ①上下水道の魅力のPR ②お客さまへの広報 ③水の環境学習の推進

【指標と目標値】

施策	指標	単位	概要・算定式	現状 (R2)	目標値 (R13)	取組事項
(2) 事業の見える化	施設見学者数	人	施設への見学者数	22	7,500	5-(2)-③

※現状 (R2) の施設見学者数は、新型コロナウイルス感染症に伴い減少 (参考: R元 7,448人)



2 SDGs との関連について

(1) SDGs とは

SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、17の目標（ゴール）が掲げられています。

 <p>1 貧困をなくそう</p>	1. 貧困をなくそう あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	 <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	10. 人や国の不平等をなくそう 各国内及び各国間の不平等を是正する
 <p>2 飢餓をゼロに</p>	2. 飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	11. 住み続けられるまちづくりを 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	3. すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する	 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	12. つくる責任 つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	4. 質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	13. 気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	 <p>14 海の豊かさを守ろう</p>	14. 海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	6. 安全な水とトイレを世界中に すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	 <p>15 陸の豊かさを守ろう</p>	15. 陸の豊かさを守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	 <p>16 平和と公正をすべての人に</p>	16. 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	8. 働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する	 <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	17. パートナリシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る		

SDGs における 17 の目標（ゴール）

(2) 本ビジョンとSDGsとの関連について

本ビジョンにおける施策を取り組むことで、SDGsの目標達成に貢献します。

【基本目標 1 安全で快適な暮らしと良好な水環境】

施 策	関連するSDGsの目標
(1) 安全で良質な水の供給 (2) 整備推進 (3) 老朽化対策 (4) 適切な維持管理	  

【基本目標 2 災害に備える】

施 策	関連するSDGsの目標
(1) 被災の最小化 (2) 速やかな復旧	 

【基本目標 3 脱炭素・循環型社会への貢献】

施 策	関連するSDGsの目標
(1) 環境負荷の低減 (2) 資源の有効利用	     

【基本目標 4 健全な事業運営】

施 策	関連するSDGsの目標
(1) DXの推進 (2) 施設の最適化 (3) 経営基盤の強化	  

【基本目標 5 信頼性の向上】

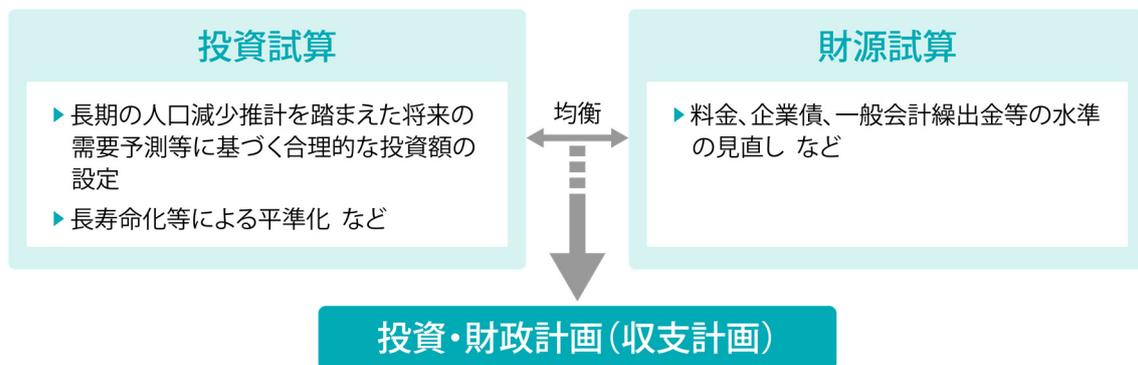
施 策	関連するSDGsの目標
(1) サービスの向上 (2) 事業の見える化	  

第4章

上下水道ビジョンの実現に向けて

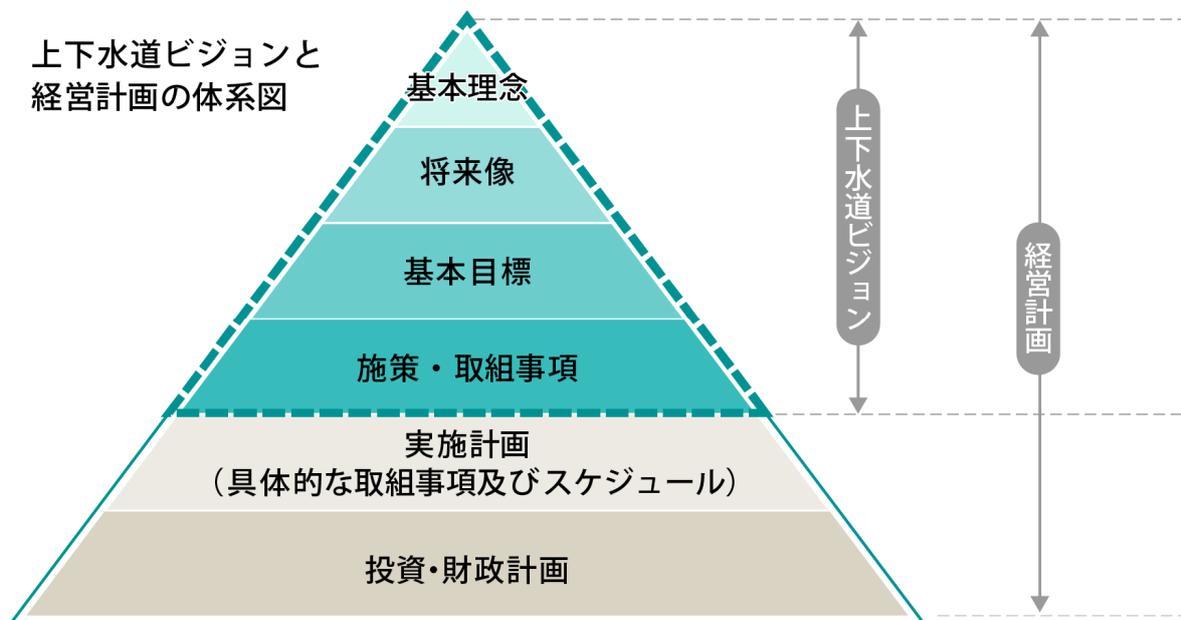
1 上下水道事業経営計画の策定

本ビジョンの実施計画として、令和4年度から令和13年度を計画期間とした「第2期鹿児島市上下水道事業経営計画」（以下「経営計画」という。）を別途策定します。経営計画は、本ビジョンの具体的な取組事項を中長期的な視点に立って、計画的に経営を行うために策定するもので、将来的な需要を適切に把握するとともに、ストックマネジメント等の知見を活用してその最適化を図る「投資計画」と、必要な需要額を賄う財源を中長期的な経営の中で計画的かつ適切に確保する「財政計画」の2つの計画で構成します。



経営計画は、計画期間を10年とし、3年ごとに策定している「中期財政計画」は、経営計画の実行計画と位置づけ、中期財政計画策定時に、経営計画もその時の社会情勢に合わせて見直しを行います。





2 経営計画の事後検証、更新等

経営計画は、PDCA サイクルに基づき、事後検証、更新等を行います。

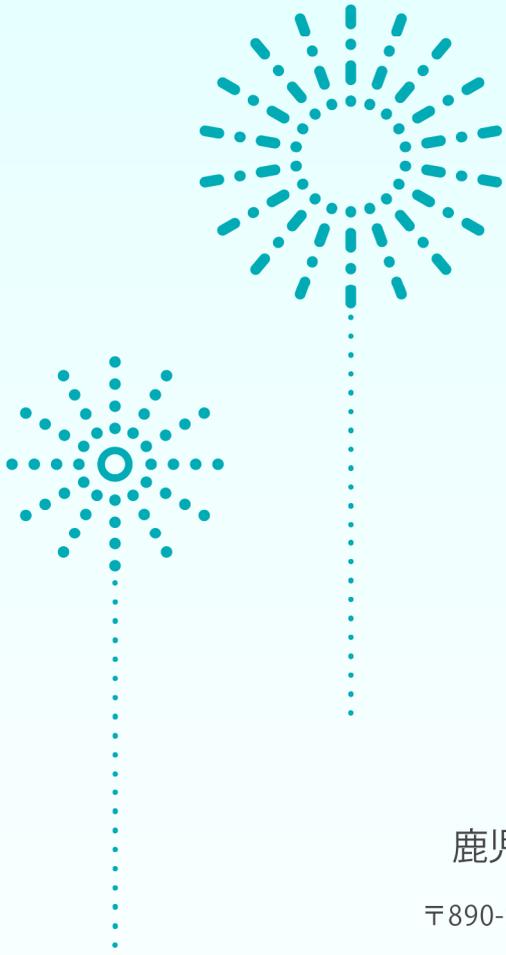
(1) 進捗管理（モニタリング）

投資及び財源の目標に沿った計画の進捗状況の確認と評価・検証を毎年度行います。

(2) 計画見直し（ローリング）

計画見直しに当たっては、進捗管理を踏まえ、計画の目標値と実績値の乖(かい)離状況について検証を行い、3年ごとに見直しを行います。





鹿児島市上下水道ビジョン

〒890-8585 鹿児島市鴨池新町1番10号
TEL 099-257-7111

